

IV 教科に関する特徴的な問題

(1) 小学校国語

目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことができるかどうか問われています。(国語B「活用」)

<調査問題国語B>

【アドバイス】

去年、わたしたちも緑のカーテンを作ったよ。おかげですずしい夏が過ごせたんだ。でも、水やりがとても大変だったなあ。

まず、毎朝水をやらないとすぐに枯れてしまうんだ。朝、水やりをわすれて、昼休みにあわてて見に行ったらおれかけていたこともあったよ。

それから、大きな緑のカーテンを作るためには、たくさんの植木ばちの水をやる必要があるんだ。植木ばちの数はどのくらい大きな緑のカーテンを作るかで変わってくるよ。

水やりは大変だったけれど、すずしい夏が送らせて、みんなも喜んでくれて本当にうれしかったなあ。

何かこまったことがあったらいつでも相談にのりよ、がんばって作ってね。



水やりに協力してくれる人を募集します

大きな緑のカーテンを作るためには水やりが大切です。しかし、水やりはとても大変です。なぜなら、

イ

このように水やりはとても大変なので、たくさんの人の協力がが必要です。協力してくれる人はわたしたちに声をかけてください。ぜひいっしょに大きな緑のカーテンを完成させ、全校ですずしい夏を過ごしましょう。

	平均正答率	無解答率
京都府	34.0%	2.2%
全国	33.0%	2.8%

三 貴さんたちは、緑のカーテンを作ったことのある中学生からの「アドバイス」をもとに、「緑のカーテン作りへの協力のお願ひ」の中を書いています。次の「イ」の中の「イ」に入る内容を、おどの条件に合わせて書きましょう。

【緑のカーテン作りへの協力のお願い】

緑のカーテン作りへの協力のお願い
6年1組 森・中村・秋山

緑のカーテンとは

夏が来ると、教室が暑くなってこまったことはありませんか。わたしたちは、それを解決するために緑のカーテンを作ることにしました。


緑のカーテンとは、まどの外に植えたアサガオなどの植物で、日ざしをさえぎるようにしたものです。緑のカーテンを作ると教室をすずしくすることができます。

中には布のカーテンをしめればよいという人もいるかもしれませんが、しかし、緑のカーテンを使うと布のカーテンよりも室内の温度を下げるすることができます。例えば、『緑のカーテンを始めよう』という本には、「ア」と書かれています。緑のカーテンは、夏をすずしく過ごすためのくふうの一つなのです。

緑のカーテンの作り方

わたしたちは、できれば1階から3階までの全教室をおおうように緑のカーテンを作りたいと考えています。そこで、次のように作ろうと決めています。

- 1 大きな植木ばちを用意し、肥料と土を入れて1階に置く。
- 2 1階から3階までネットをはる。
- 3 アサガオの種をまく。
- 4 たくさんの水をやる。
- 5 一番太いつるが1mぐらいになったら先の芽を切る。
- 6 芽が分かれたのびてきたらネットにまきつける。
- 7 7月になったら肥料を追加する。



水やりに協力してくれる人を募集します

2 貴さんたちは、「緑のカーテン」を作るため、同じ学年の友達に協力してほしいと思い、次の「緑のカーテン作りへの協力のお願ひ」を書いていきます。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

なぜなら、

30字

60字

※上の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。どちらかで行を変えないで、続けて書きましょう。

○ 水やりが大変な理由を「アドバイス」から二つ取り上げて書くこと。
○ 「緑のカーテン作りへの協力のお願ひ」にふさわしい表現で書くこと。
○ 書き出しの言葉に続けて、三十文字以上、六十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

* 中学生のアドバイスを元に、水やりに協力してくれる人を募集する文章を書く問題です。
* 自分の伝えたいことがわかるようにするには、具体的な事実を基にしたり、複数の内容を関係づけたりしながら、必要な内容を整理して書くことが重要です。
* 具体的には、取材等の活動を通して書く事柄を収集した上で、その中から具体的な事実と自分の感想、意見などを区別しながら必要な内容を整理して書く指導などが必要です。

(2) 小学校算数

割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことができるかどうかをみる問題です。問題を解決するために、目的に合った適切な表やグラフを選択し表したり、読み取ったり、グラフどうしを関連付けて解釈したりするなど、表やグラフを活用できるかどうか問われています。

<調査問題 算数B>

4

学校で、4年生以上の学年について、ハンカチとティッシュペーパーを持ってきているかどうかについて調べました。

ゆうじさんは、調べた結果を次のようにまとめました。

ハンカチ・ティッシュペーパーを持ってきた人数 (人)				
学年	ハンカチを持ってきた	ティッシュペーパーを持ってきた	両方持ってこなかった	学年の人数
4年	40	47	2	52
5年	62	61	1	70
6年	52	57	1	60

ゆうじさんたちは、調べた結果をグラフに表して発表しようと考えています。



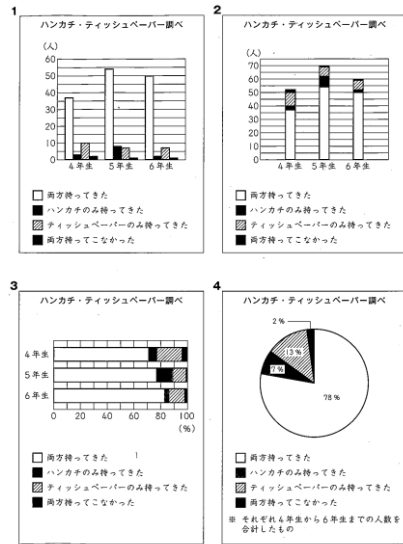
ハンカチとティッシュペーパーの両方を、いちばんよく持っている学年がわかるようなグラフを作りたいです。



学年の人数がちがうので、「学年の人数」をもとにしたときの「ハンカチとティッシュペーパーの両方を持ってきた人数」の割合がわかりやすいグラフを作ればよいと思います。

(2) それぞれの学年の、「学年の人数」をもとにしたときの「ハンカチとティッシュペーパーの両方を持ってきた人数」の割合を表すのに、最も適したグラフは、右の 1 から 4 までの中のどれですか。

1つ選んで、その番号を書きましょう。



	平均正答率	無解答率
京都府	29.8%	3.5%
全国	29.3%	4.6%

☆平成 26 年度全国学力・学習状況調査において、全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択することを課題として指摘しており、これに関連した設問です。

☆京都府の正答率は、全国平均を 0.5 ポイント上回っているが、目的に適したグラフを選ぶことに依然として課題があります。

☆指導に当たっては、グラフから何が読み取れるかを問うことで、グラフの特徴を明らかにする活動や、目的に最も適したグラフを判断し、その理由を説明し合う活動が必要であります。

(3) 中学校国語

相手にわかりやすいように語句を選択して話すことができるかどうかを見る問題です。(国語A 「話すこと・聞くこと」)

<調査問題 国語A>

もう一冊は を取り上げたいと思っています。

一 森さんの――線部①の発言のすぐあとに、先生から――線部②の発言を引き出すためには、森さんは――線部③でどのように発言するとよいですか。次の に当てはまる言葉を十字以内で書きなさい。

森 国語の授業で、「芥菜」というテーマで本を紹介することになりました。自分でも探しているのですが、なかなかこれという本が見つかりません。何かよい本はありますか。

先生 森さんは、どのような本を取り上げたいと思っているのですか。

森 私は、何かに打ち込む女ながら成長していく人が出てくる本を二冊紹介したいと考えています。一冊はサッカーに打ち込む中学生を主人公とした小説を選びました。もう一冊はそれ以外を取り上げたいと思っています。

先生 もう一冊の本もスポーツに関係する本にしますか。

森 スポーツの本でも、スポーツではない本でもよいと考えています。

先生 それならば、野球に打ち込む中学生を主人公とした小説がありませんか。

森 いえ、そうではないのです。一冊は小説を取り上げたので、もう一冊の本は違うものにしたいです。

先生 そうだったんですね。では、志願にあった前巻部を語った本はどうですか。

森 それは悪い付きませんでした。具体的にはどのようなものがありますか。

先生 音楽に打ち込む人を取り上げた本や、演劇に打ち込む人を取り上げた本などがあります。音楽や演劇の権を見てみるとよいですよ。

森 分かりました。最初にも音楽の権を見てください。ありがとうございます。

7 森さんは、国語の授業で本を紹介するために学校図書館で先生に相談しています。次は、森さんと先生との会話です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

	平均正答率	無解答率
京都府	54.9%	4.1%
全国	54.0%	5.1%

- ☆会話の流れの中でどんな語句を選べば相手の理解が得られるかを考えさせる問題です。
- ☆インタビューや話し合いを通して、相手の反応を踏まえて伝えたいことが適切に伝わったかどうかを考え、必要に応じてわかりやすい語句を用いて言い換えたり、複数の尋ね方をしてどれが最もわかりやすいかを検討させる指導が必要です。

(4) 中学校数学

範囲の意味を理解しているかどうかをみる問題です。資料の散らばりに着目してその資料の傾向を読み取ることができるかが問われています。

<調査問題 数学A>

14 次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 次の記録は、ある中学校の生徒7人が反復横とびを20秒間行ったときの結果を、回数の少ない方から順に並べたものです。

記録

40	46	47	48	53	53	56
----	----	----	----	----	----	----

(単位：回)

反復横とびの記録の範囲を求めなさい。

	平均正答率	無解答率
京都府	22.0%	7.7%
全 国	28.6%	9.6%

☆京都府の正答率は、全国平均を6.6ポイント下回っています。「40から56」と解答した誤答率が40.1%あり、全国平均を7.7ポイント上回っています。範囲とは何かを正しく理解できていないという課題があります。

☆学習指導に当たっては、範囲の意味を理解できるようにするために、範囲とは、資料の最大値と最小値のとの差であることを確認した上で、資料の散らばりの程度を捉える活動を取り入れることが必要です。また、具体的な資料を用いて、代表値や資料の散らばりに着目してその資料の傾向を読み取る活動を取り入れることが重要です。